

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：34310

研究種目：基板研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520210

研究課題名（和文）日本近代における文学の中の建築表象に関する研究——西洋的空間の言説表現をめぐって

研究課題名（英文）A Study of the Image of Architecture in Modern Japanese Literature:
The Discourse about the Western Space

研究代表者

西川 貴子（NISHIKAWA ATSUKO）

同志社大学・文学部・准教授

研究者番号：20388036

研究成果の概要（和文）：本研究は、19世紀・20世紀の日本における文学と建築という二つの表象形式から「西洋」空間について具体的に調査するとともに、そうした表象と同時代の科学技術志向及び都市化との関連を解明することを目的としたものである。文学、建築の共同研究者および協力者の研究をベースに研究会合をもつほか、外部から適任の講演者を招聘し理解を深め、さらには共同研究者とともに国際シンポジウム・国際学会で発表し成果を公表した。

研究成果の概要（英文）：This project has been aimed at shedding light on the image of the "western space", as it appears in the literature and architecture of 19th and 20th century Japan. At the same time, our research has tried to clarify the relationship between the above-mentioned forms of representation and the pursuit of science, technology and urbanization dominating the modern age. In the course of the project, the members--specialists in literature and architecture-- held regular study meetings, at which guest experts from various connected fields gave talks, furthering the understanding of the topic at hand. The members made public the results of their work through presentations at international conferences and symposia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：近、現代文学・建築表象・西洋表象・建築および都市空間

1. 研究開始当初の背景

（1）明治維新以後、推進されてきた「近代化」とは、あくまでも「未来形」であり、その実態（実質）は、語られ、作られること、すなわち表象されることによって初めて具

現化されるといえる。それは、時には新たな認識や生活空間・パターンを生み出す契機となる一方で、「現在」において〈あり得る〉（〈あり得た〉）「未来」を表象することにもなる。したがって、その表象自体が歪なも

のを抱えているのも当然だといえる。もちろん、このような「近代化」をめぐる問題は何か文学と建築という領域に限ったことではないであろう。しかし、空間がどのように言説化され表象されたかという観点で「近代化」の有する問題に迫る時、文学と建築という領域を結びつけて検討することはきわめて有効であると考えられる。

(2) 本研究ではこのような視座に立ち、文学と建築の領域において「近代化」の表象を問う時に重要となる「西洋」空間の表象のあり方について着目したい。言うまでもなく、「近代化」と「西洋」空間はイコールではないし、両者ともそれぞれ一様なものではない。また、そもそも空間を言語において表象すること自体、何かしらのバイアスがかかってくることにもなり、そこにモノと言葉との往還の中で生まれてくる本質的な問題も含まれているといえるだろう。

例えば、「植民地」における近代建築は「日本」をシンボライズする建築であり、明治期の日本における「近代化」の象徴として「西洋」を見ようとしたあり方とは大きく異なっている。しかしながら日本人旅行者達は「植民地」における近代建築に必ずしも「日本」を見ていたわけではない。このように、“その場”では様々なズレが生じているのである。

つまり、一言に「西洋」空間、「近代化」の象徴といっても時代や状況のズレはもちろん、「表象としての建築」と実在した「物としての建築」とのズレがあり、本研究においてはこのズレの詳細な分析こそが主眼となるのである。

(3) 特に本研究が文学の領域を重視するのは、文学テクストを分析することによって、実際に創出された「西洋」空間を見ることのみならず、「西洋」空間がどのように創出されようとしていたのかという、その概念形成の過程自体を捉えることが可能になるからである。文学テクストをそのような観点で分析・調査することによって初めて、一様ではない多義的な「西洋」空間の内実、「近代化」の内実を捉えることが可能となるだろう。

(4) 以上のことから、本研究では文学テクストを主軸として、言説表象と実在の日本・西洋・旧「植民地」の近代建築の表象との連関を見ることにより、日本文化における空間認識のあり方について身体性の問題も含めて問い直すという試みを行う。

そして、こうした日本文化における〈生きられた空間〉を探る試みは現代の都市が抱える問題や、さらにはインターネットなどの様々なメディアが溢れ、時間認識・空間認識が変化している現代の精神構造を考える上

でも有効な視点であると考えられる。

(5) 代表者の数年来の研究対象である幸田露伴は、日本家屋における用具(畳等)と「坐る」「立つ」という行為に表される精神のあり方[「家屋の構造」『新小説』1897]を述べるなど、早い時期から〈生きられた空間〉として建築物を捉える視点を有しており、このような露伴の空間認識について、代表者は「観画談」という作品を取り上げて論じた[「「観画談」試論——〈移動〉と〈境界〉——」『國語と國文学』2000年]。また、1920-30年代における佐藤春夫の文学に見られる台湾表象に関して、春夫が実際に東京に建てた「支那風」の邸宅をめぐる記事や、「女誠扇綺譚」「奇談」などの作品を通して論じている[「日本近代文学における〈支那〉及び〈台湾〉表象——佐藤春夫の作品を中心に」2009年3月2日台北市立教育大学学術講演、『作ることの視点における1910-40年代日本近代化過程の思想史的研究成果論集(平成19年度科学研究費補助金助成基盤研究(B)(19320019))』2009、「消え去りゆく〈声〉——佐藤春夫「奇談」を読む——」『日本文学』2009]。

(6) 代表者の既往の研究から更に発展させ、今回は特に文学と建築との関係性に絞り、同様の関心を寄せる研究者——文学テクストにおける建築物や都市の表象に関して建築史・都市論の分野から研究をしている藤原学氏と大正・昭和期の文化状況と文学テクストの関連についての研究をしている日高佳紀氏——の両者に呼びかけ、共同研究グループを組織した。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、主に文学作品を中心とした言説表象において、近代及び現代の空間表象がどのように形成され展開していったかという点に着目し、日本の近現代思想の新たな側面を切り拓こうとしたものである。

(2) 19世紀・20世紀の日本における文学と建築という二つの表象形式から、現実世界及び虚構世界で表象されようとしていた「異文化との交差点」「近未来像」である「西洋」空間について具体的に調査するとともに、そうした表象と同時代の科学技術志向及び都市化との関連を解明することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究組織

① 研究運営：研究代表者の所属する同志社大学を中心に行う。会を運営する両大学には基本的な研究資料の設置をして、研究の利

便性を図る。

- ②研究体制：研究代表者、研究分担者を中心として年に約4回の研究会合を開く。

研究会合は外部識者や、大学院生などの若手研究者の積極的な参加を要請し、研究体制活発化を図り、国際シンポジウムや学会への参加および論文集を企画を行う。

(2) 具体的な作業

- ①理論書や先行研究を読み、問題を分担者で共有しつつ、検討課題を抽出する。

- ②基礎的資料を収集し、分担者で共有する。資料収集に関しては以下のような役割分担が可能である。

・建築および都市計画関連資料の収集と分析 [藤原]

・明治期の文学テキスト関連資料の収集と分析、旧満州をはじめとする「植民地」関連の日本文学テキスト資料の収集と分析 [西川]

・大正・昭和期の文学テキスト関連資料の収集と分析 [日高]

- ③建築思潮史・建築史・文学の若手研究者を積極的に参加させ学際的な研究会、ワークショップを開催する。

[若手研究者：笹尾佳代（現・徳島大学）・高木彬（現・京都工芸繊維大学大学院博士後期課程修了生）]

- ④実地調査を行う。

4. 研究成果

19世紀・20世紀の日本における文学と建築という二つの表象形式から、「西洋」空間について具体的に調査するとともに、そうした表象と同時代の科学技術志向及び都市化との関連を解明することを目的として、文学、建築の共同研究者および協力者の研究をベースに研究会合をもち、研究成果の検証および情報の共有を行なった。具体的な活動としては以下の通りである。

- (1) 研究会合および外部識者の講演による調査の情報共有・内容理解の深化

<平成22年度>

・5月＝藤原学（研究分担者）報告「日本における西洋近代建築の基礎的知識について」（於京都大学）（日本の西洋近代建築に関する基礎知識を共有し、メンバーでの問題点を出し合った）

・7月＝高木彬（研究協力者）報告「日本における西洋建築表象を考える上での参考文献に関して」（於同志社大学）（主に田中純の著作を会話し、日本における西洋建築表象がこれまでどのように捉えられてきたか、また今後どのような形で分析していくべきかをメンバーで議論した）

・8月＝笹尾佳代（研究協力者）報告「満州を舞台とした日本近代文学、日本近代文学に描かれた満州の西洋建築に関して」（於同志社大学）（10月に開催する国際シンポジウムに向けての準備）

・1月、3月＝平成23年度EAJSにエントリーする上でのパネル発表テーマについてのメンバー間での議論（於同志社大学）

<平成23年度>

・5月＝ドッド氏（外部識者・ロンドン大学）報告「伊藤整「幽鬼の町」」（於同志社大学）

（於同志社大学）（8月に参加するEAJSでのパネル発表“Tangible Narratives: The Significance Of Architecture In Modern Japanese Literature”に関する議論）

・7月＝藤原学報告「谷崎潤一郎「蓼食う虫」」（8月に参加するEAJSでのパネル発表に関する議論）

・7月＝西川貴子（研究代表者）報告「泉鏡花「白金之絵図」」（於同志社大学）（8月に参加するEAJSでのパネル発表に関する議論）

・8月＝EAJSパネル発表の最終打ち合わせ（於エストニア・タリン大学）

・11月＝市川秀和（外部識者・福井工業大学）講演「室生犀星における「終の住まいと庭」」（於京都コンソーシアム）

・11月＝高木彬報告「ビルディング」の解体—稲垣足穂「有楽町思想」」（於京都コンソーシアム）

<平成24年度>

・8月＝水上優（外部識者・福山大学）講演「文学における帝国ホテル」

・8月＝日高佳紀（研究分担者）報告「開化の居留地—大佛次郎「霧笛」の都市と建築」

・10月＝笹尾佳代報告「軽井沢のモダニズム」

・10月＝西川貴子報告「夢野久作「氷の涯」に見るハルピン建築表象」

・11月＝木田隆文（外部識者・奈良大学）講演「武田泰淳の〈上海〉小説—建築にみる日本統治」

・1月＝田口律夫（外部識者・龍谷大学）講演「「復興小学校」をめぐる問題系」

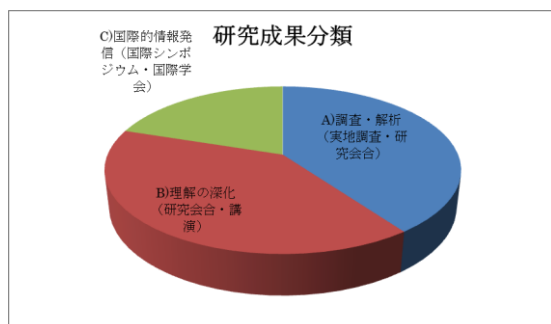
- (2) 国際シンポジウム開催による研究成果の国際的な情報発信

・平成22年10月29日：国際シンポジウム「近代日本の都市表象」（於大連外国語学院日本語学院・大連・中国）

- (3) 国際学会（EAJS）でのパネル発表による研究成果の国際的な情報発信

・平成23年8月25日 International Conference of EAJS：パネル発表“Tangible Narratives: The Significance Of Architecture In Modern Japanese

Literature”（於タリン大学・エストニア・タリン）



(4) 具体的に解明された事柄

① 西洋建築表象を通して見える近代日本の概括的な問題

② 日本文学に描かれる旧植民地における近代建築空間のあり方の分析（時代性・地域性・政治性・作家などの観点から）

③ 明治期日本における西洋建築表象のあり方の分析（時代性・地域性・政治性・作家などの観点から）

④ 大正・昭和期（戦前）日本における西洋建築表象のあり方の分析（時代性・地域性・政治性・作家などの観点から）

(5) 今後の展開

現在、研究成果を論集として刊行し情報を発信していく準備を行っている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

- ① 西川貴子、明治の浦島物語——幸田露伴「新浦島」試論——、同志社国文学、査読有、第78号、2013、PP. 91-103
- ② 日高佳紀、UN INTENTO PARA RECUPERAR UNA HISTORIA PERDIDA. LA LITERATURA DE LOS INMIGRANTES JAPONESES EN CANADA Y SUZUKI ETSU, PERIODISTA DE LA DIASPORA, ESTUDIOS DE ASIA Y AFRICA、査読有、150, Vol. XLVIII、2013年、PP. 231-254
- ③ 日高佳紀、エキゾチズムの在処——村上春樹「スプートニクの恋人」のミュウー、慶南学、査読無、第33号、2012年、PP. 287-302
- ④ 日高佳紀、MODERNITY AND TANIZAKI JUNICHIRO'S STYLE REFORM: THE THOUGHT PROCESS LEADING TO "THE TASTE FOR

CLASSICAL JAPANESE HISTORY OR LITERATURE”、“Cogito” (Journal of “Dimitrie Cantemir” Christian University)、査読有、Vol. IV, No. 1、2012、PP. 147-159

- ⑤ 西川貴子、SPATIAL TRANSFORMATIONS IN IZUMI KYOKA'S A MAP OF SHIROGANE、“Cogito” (Journal of “Dimitrie Cantemir” Christian University)、査読有、Vol. IV, No. 1、2012、PP. 124-133
- ⑥ 日高佳紀、〈古典回帰〉再考——谷崎潤一郎「蘆刈」と歴史叙述、文学・語学、査読有、第201巻、2011年、PP. 141-152
- ⑦ 日高佳紀、メタフレーズとしての読むこと——〈文学を教える〉と〈文学で教える〉の間——、奈良教育大学国文—研究と教育、査読無、34号、2011年、PP. 1-16

〔学会発表〕（計9件）

- ① 藤原学、江戸の風・京の風、建築計画研究会、2012年3月16日、東京工業大学（東京）
- ② 日高佳紀、エキゾチズムの在処——村上春樹「スプートニクの恋人」のミュウー、国際学術会議：近代転換期の東アジアの文学・文化への再認識：横断と接境、2011年9月23日、慶尚大学校（慶尚南道，韓国）
- ③ 藤原学、The architecture of a novel: three images of a western house in Tanizaki Jun'ichirô's Some Prefer Nettles、International Conference of EAJS、2011年8月25日、タリン大学（タリン，エストニア）
- ④ 西川貴子、The architecture of transformation: changing perceptions of space in Izumi Kyôka's *A Map of Shirogane*、International Conference of EAJS、2011年8月25日、タリン大学（タリン，エストニア）
- ⑤ 西川貴子、幸田露伴「平将門」論——〈言葉〉をめぐる物語——、日本近代文学会関西支部春季大会、2011年6月11日、龍谷大学（京都）
- ⑥ 日高佳紀、〈古典回帰〉再考——谷崎潤一郎「蘆刈」と歴史叙述——、全国大学国語国文学会、2011年6月4日、東洋大学（東京）
- ⑦ 藤原学、露伴・荷風・潤一郎の東京論、近代古都研究会、2011年4月16日、京都大学人文科学研究所（京都）
- ⑧ 藤原学、都市空間の馴化 谷崎潤一郎『秘密』を読む、国際シンポジウム：近代日本の都市表象、2010年10月29日、大連外国語学院日本語学院（大連、中国）
- ⑨ 西川貴子、カオスの描かれ方——一九三

○年代の探偵小説に見る「満洲」——、
国際シンポジウム：近代日本の都市表象、
2010年10月29日、大連外国語学院日本語
学院（大連、中国）

〔図書〕（計5件）

- ① 日高佳紀（共著）、新曜社、ライフコー
ス選択のゆくえ——日本とドイツの仕
事・家族・住まい、2013年、
PP. 209-231、
- ② 西川貴子（共著）、日本近代文学会関西
支部兵庫近代文学事典委員（編）、和泉
書院、兵庫近代文学事典、2011年、
PP. 40, 129 - 130, 345, 349、
- ③ 西川貴子（共著）、筑紫野文学館、杉山
家5代を語る、2011年 PP. 19-20
- ④ 日高佳紀（共著）、和泉書院、村上春樹
と小説の現在、2011年、PP. 118-127
- ⑤ 西田谷洋、浜田秀、日高佳紀、日比嘉高、
和泉書院、認知物語論キーワード、2010
年、108

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西川 貴子 (NISHIKAWA ATSUKO)
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：20388036

(2) 研究分担者

日高 佳紀 (HIDAKA YOSHIKI)
奈良教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：00335465

藤原 学 (FUJIWARA MANABU)
京都大学・人間環境学部・助教
研究者番号：60324670

(3) 連携研究者

()

研究者番号：